宮内省御貸下

宮城寫眞帖

附 新宿御苑・明治神宮

特268-381
1200501126080
特268
91

始

特268
381

宮内省御貸下

宮城寫眞帖

大正
14.6.13
内交

緒言

我が國は皇室を以て建國の中心とし萬世一系の皇統と忠君孝悌主義の國民とが相倚つて光輝ある國體の精華を發揚して居る。畏くも皇室に於かせられては國民の日常生活にまで深く叡慮を煩はさせ給ふは、國民の齊しく感佩措く能はざる所にして、國民も亦皇室を敬慕し奉り、皇運の無窮を祈り、有事に際しては身命を擲ち平時に於てはひたすら忠良なる陛下の股肱たらんことを希つて止まぬのである。されば國民が皇室を尊崇し親しみ申上ぐるの餘り宮中の御模様を拜知し其の尊嚴に接したく思ふは自然の情にして之は實に我が國特有の麗しき國民性の然らしむる所である。

本寫眞帖は本會が特に宮内省より宮中の御寫眞御貸下の光榮を得て編纂したるものにして壯嚴なる御寫眞を拜觀しつゝ其の說明を一讀せられたならば坐ながらにして宮中の尊嚴に接し御所離宮其他の神聖に近づくことが出來るであらう。幸に本書が一般國民の間に繙かれ、善良なる國民性の涵養に資することを得ば誠に幸甚の至りである。

大正十四年五月

大日本國民教育會長

正三位勳四等　本莊壽巨謹識

目次

御眞影

今上陛下、皇后陛下

攝政宮殿下、皇太子妃殿下

宮城

宮城二重橋……一

御車寄……二

宮中正殿……三

正殿前庭……四

宮中豐明殿……五

豐明殿前庭……六

千種之間……七

西溜之間……八

賢所……九

振天府……一〇

有光亭及振天府參考室……一一
建安府……一二

御所、離宮

東宮假御所……一三
東宮假御所 御苑……一四
濱離宮……一五

明治神宮

明治神宮 御本殿……一六
明治神宮 表參道大鳥居……一七
明治神宮 正面鳥居及南神門……一八

新宿御苑

新宿御苑 御殿……一九
新宿御苑 御殿林泉……二〇
新宿御苑 動物園林泉……二一
新宿御苑 正門……二二

今上陛下

皇后陛下

攝政宮殿下

皇太子妃殿下

明治天皇御製

國

天つ神定め給ひし國なれば
　わがくにながらたふとかりけり

民

千萬のたみのちからを集めてぞ
　國はゆたかになすべかりける

劍

しきしまの大和心をみがゝずば
　劍おぶともかひなからまし

義

身にあまるおも荷なりとも國の爲
　人のためにはいとはざらなむ

仁

ちよろづの民の心ををさむるも
　いつくしみこそ基なりけれ

宮城二重橋

宮城

宮城は東京市の中央に位し、麹町區内に在り、總面積は三十萬六千七百六十坪で四圍は清麗な外苑や御濠を廻らし森嚴を極む。舊徳川氏の江戸城で康正二年（今より四百六十八年前）鎌倉管領上杉定正の家臣太田持資の創築にかゝり、後徳川家康大いに之を増築した。城域は本城西城の二區に分ち、西城のみ文久三年の火災後造營せられたものを存し、明治の御代に及び明治元年七月十八日を以て都を東京に遷させられ、夫より江戸を東京と稱せられ、同年十月十三日を以て皇居とお定めになつたのである。然るに明治六年五月五日の火災により亦全部烏有に歸して了つた。今日の宮城は明治十七年七月の起工で同二十一年十月の竣工、總建坪一萬二千七百三坪、内表宮殿二千二百十餘坪の外、奥御殿、賢所、皇靈殿、神殿、振天府、建安府等がある。明治二十二年一月九日先づ賢所の御遷座があり、兩陛下には同一月十一日赤坂の假皇居から還御遊ばされた。

明治天皇御製

天

あさみどり澄みわたりたる大空の
廣きをおのが心ともがな

峯

おほぞらに聳えて見ゆるたかねにも
登ればのぼる道はありけり

水

器にはしたがひながらいはがねも
とほすは水のちからなりけり

地

產みなさぬものなしといふあらがねの
つちはこの世の母にぞありける

人

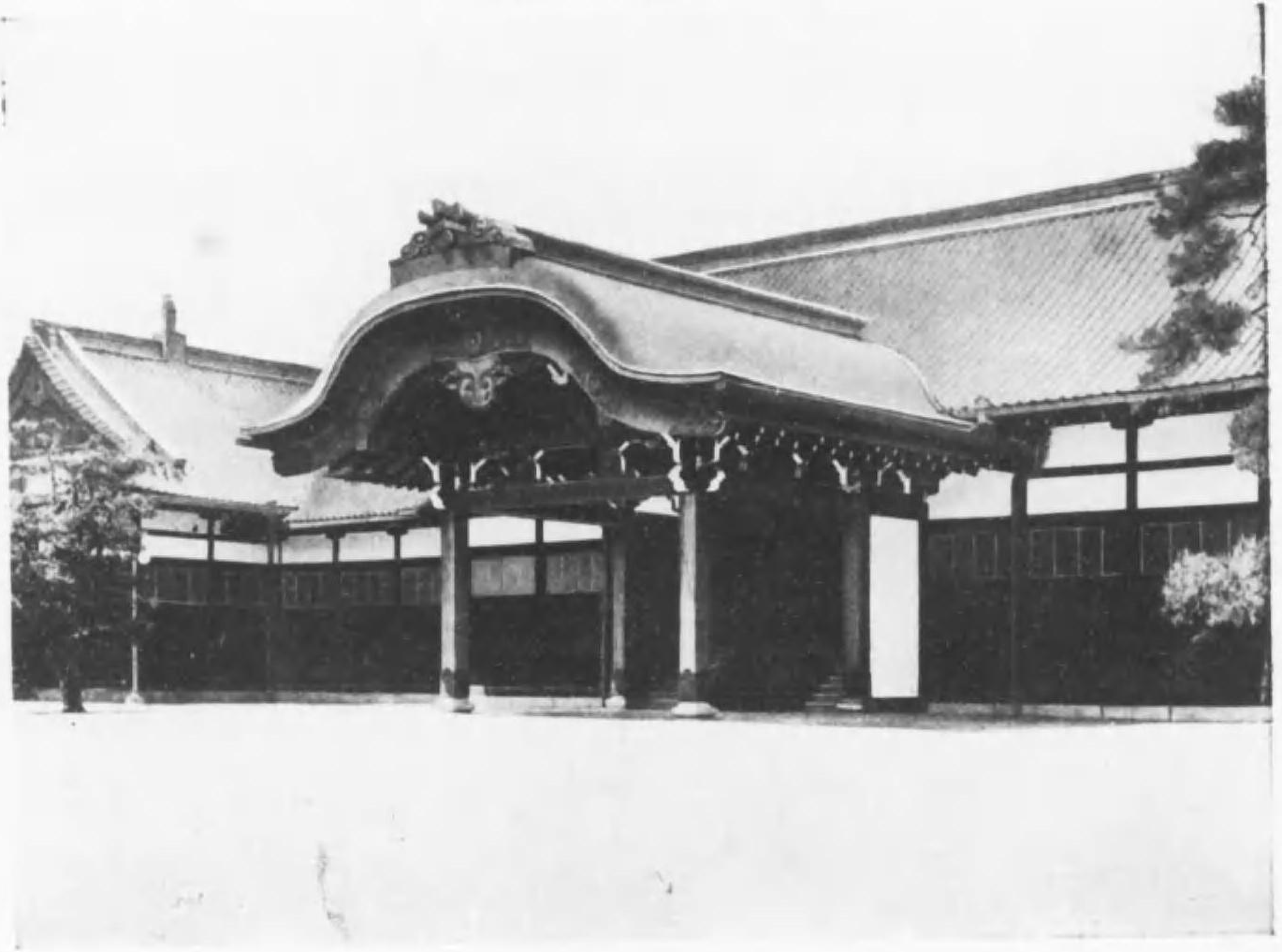
をちこちにわかれすみても國を思ふ
人の心ぞひとつなりける

御車寄

宮城正門を入り、俗に云ふ二重橋の鐵橋を渡れば、玉の如きさざれ石を敷き詰めた奇麗な御庭を前にして、白木造の御車寄がある。これぞ宮城の大玄關で、畏くも兩陛下の行幸啓の御時は申すに及ばず、國賓並に國書捧呈の爲め參内する外國使臣の出入は、必ず此處からせらるゝが例である。此の御車寄は純日本式で、御戸は檜造り觀音開きで絹布を貼り、黃金色の金具を打つてある。殿上には七級の階段を踏んで昇るのである。

御車寄の左右には左廂右廂が連り、其の上部は乳白の摺硝子で、下部には蔀格子が嵌められてある。

御車寄



明治天皇御製

國

世はいかに開けゆくともいにしへの
國のおきてはたがへざらなむ

寶

神代よりうけし寶をまもりにて
治め來にけり日のもとつ國

折にふれて

いそのかみ古きためしをたづねつゝ
新しき世のこともさだめむ

瀧

岩がねにせかれざりせば瀧つ瀬の
水のひゞきも世にはきこえじ

朝

起き出でゝ思ふ事なきあしたこそ
をさな心にひとしかりけれ

宮中正殿

宮中正殿

正殿は萬の御儀式を行はせらるゝ御殿である。踐祚式、軍旗授與式等の大典は必ず本殿で行はせられるのである。憲法發布式ガーター勳章捧呈式も本殿で御擧行になつた。

格天井にはいと美しく草花模樣を描き、床は欅の寄木細工とし御內側の壁の張付は總て赤地緞子に金絲銀絲の御總があり、金具は黃金作りである。正面は高さ二尺、縱三間、橫二間の玉座が設けられ、それに厚さ一寸の緋の絨氈を敷き、金蒔繪に赤緞子を張つた二脚の御椅子が安置されてある。正殿は百八坪、周圍の御廊を加へて十三間に十間の廣さで、人工の極美を盡せる日本美術の代表的傑作をもつて充され其結構の美麗壯觀、到底筆紙のよく盡すところではない。

明治天皇御製

教育

たゞしくも生ひしげらせよ敎草
をとこをみなの道を別ちて

國

よきをとりあしきをすてゝ外國に
おとらぬ國となすよしもがな

神祇

目にみえぬかみの心に通ふこそ
ひとの心のまことなりけれ

友

もろともにたすけかはしてむつびあふ
友ぞ世にたつ力なるべき

光陰如矢

思ふことつらぬかむ世はいつならむ
射る矢のごとくすぐる月日に

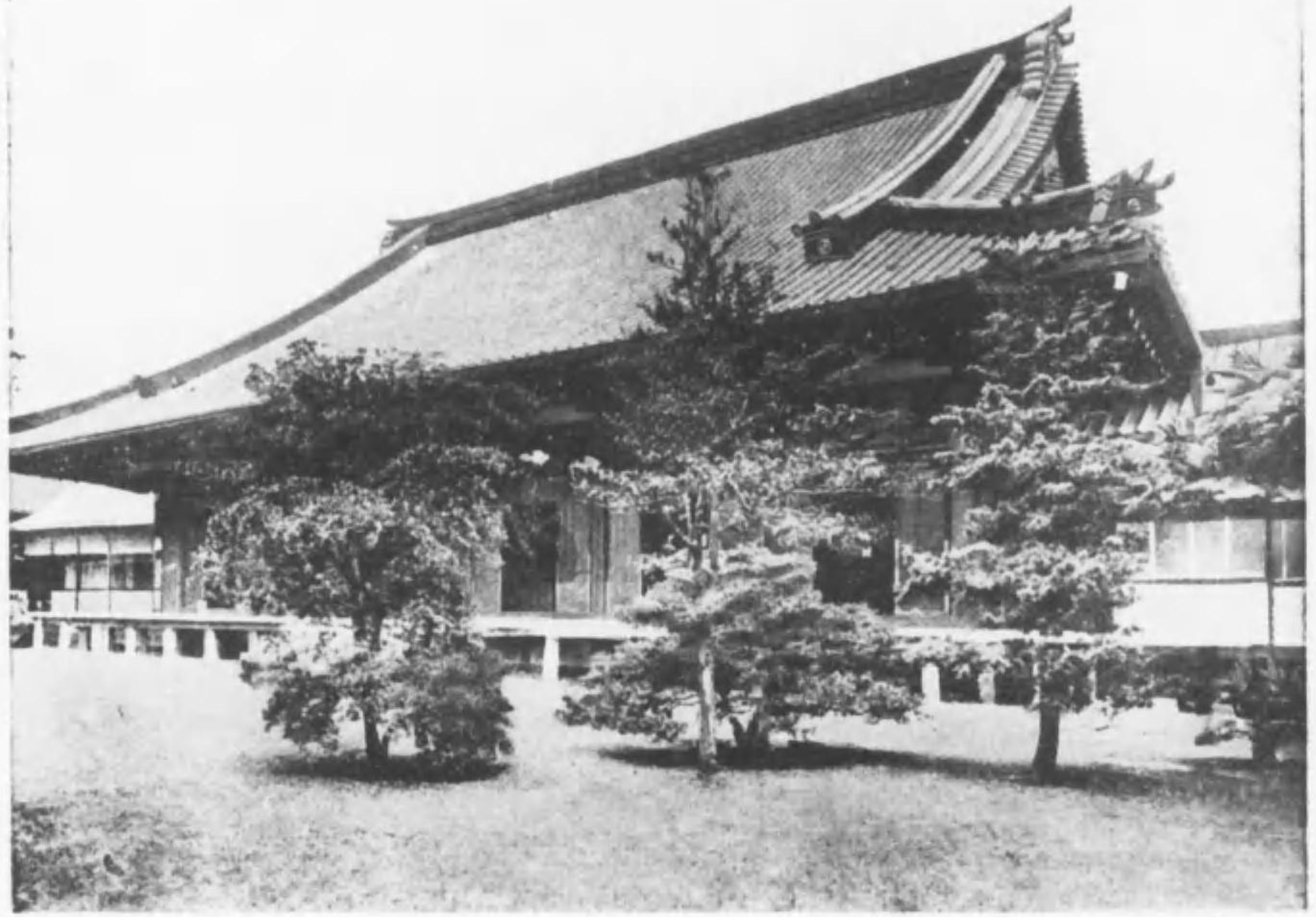
正殿前庭

正殿の三方は廣い御廻廊で、昇降には五級の階段を設けられてある。

正殿の御前庭には棕梠、針葉樹、濶葉樹など程よく植えられ、其の翠は一片の塵をも止めざる芝生の緑と相對照して頗る優雅である。

明治天皇御昇天の際は、正殿を殯殿に當てさせられ、久しく御靈柩を奉安し、文武百官の拜禮を許された。

正殿前庭



明治天皇御製

樂

千萬の民と共にもたのしむに
　ます樂はあらじとぞおもふ

述懐

照るにつけくもるにつけて思ふかな
　わが民草のうへはいかにと

をりにふれて

開けゆくときにいよ〳〵仰がれぬ
　ひじりの御代のたかきをしへは

細徑

小山田の畔のほそ道細けれど
　ゆづりあひてぞしづは通へる

書

いにしへの文の林をわけてこそ
　あらたなる世の道も知らるれ

宮中豐明殿

宮中豐明殿

正殿の後に御庭を隔てゝ高く聳ゆる御建物は豐明殿である。宮殿中最も宏大なもので其の廣さ縱十八間二尺、横八間四尺である。豐明殿は宮中の御饗宴を行はせらるゝ所であつて、新年宴會、紀元節、天長節の御賜宴には勿論の事、國賓並に外國使臣其他臣僚に御陪食を賜ふには必ず此の豐明殿に於てせられる。出入口は、四枚の硝石戸よりなり、其の中央の觀音開きの硝子戸を排して出入するのである。天井は二重折上格天井で、其の模樣は總ゆる色といふ色を集めて四個の菊花を模樣化せる、清新な圖案である。床は寄木細工であつて、宛ら鏡のやう、雄麗壯美を極むる御調度の數々を映して居る。

明治天皇御製

庭上鶴

こゝのへのみぎりに馴れてすむたづの
千代よぶ聲をきかぬ日ぞなき

巖上龜

うごきなきあきつ島根のいはの上に
よろづよしめて龜はすむらむ

雪中松

としぐに雪をかさねて老松の
みさを高くもなりまさりけり

綠竹年久

九重のうてなの竹のふかみどり
かはらぬかげぞ久しかりける

雪中早梅

ふりつもる雪をしのぎて咲く梅の
花はいかなるちからあるらむ

豐明殿前庭

豐明殿前庭

豐明殿の前庭には、古松高く聳え、噴泉は空に迸つて四圍自ら清新の氣に充ちて居る。

新年宴會、紀元節、天長節等の御饗宴の時は此處に舞樂臺を設けさせられ、古雅な舞樂を行はせ給ふとのことである。又國賓及外國使臣御接伴の時には、嚠喨たる洋樂を奏せらるゝが例である。

明治天皇御製

誠

鬼神もなかするものは世の中の
　人のこゝろのまことなりけり

道

ならびゆく人にはよしやおくるとも
　たゞしき道をふみなたがへそ

寶

つたへきて國のたからとなりにけり
　聖のみよのみことのりぶみ

親

たらちねのみおやの教あらたまの
　年ふるまゝに身にぞしみける

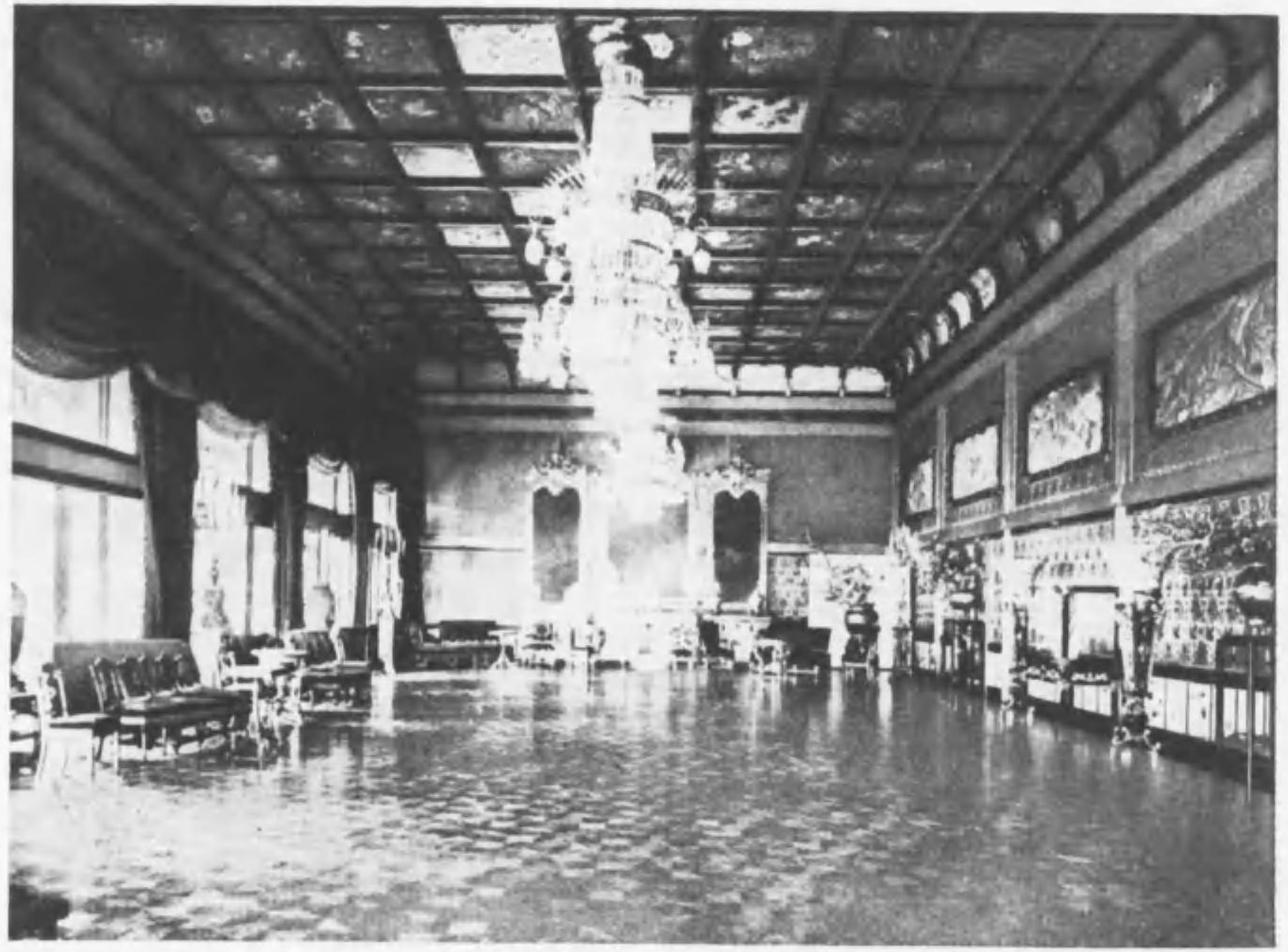
子

たらちねのおやの教をまもる子は
　まなびの道もまどはざるらむ

千種の間

豐明殿の西に接した宏壯な建物の中に千種の間、牡丹の間、竹の間の三間がある。此の三間の内前方の千種の間が、一番大きく縱が十三間、横が六間半である。千種の間は其の名のやうに天井より蛇腹にかけて、藤、牡丹、櫻、梅、百合等の千差萬樣の花が咲き亂れてゐる繪が一面に畫かれて居る。欄間には芭蕉の彫刻を嵌め、正面には三面の鏡が据ゑてあつて、天井や花瓶の花が其の鏡に反映する樣は宛ら花園を逍遙するの感がある。床は欅の寄木細工でこれまた鏡のやうに磨き淸められてある。豐明殿は大抵多人數の饗宴の時に御使用あらせられるが、小人數の時には此の千種の間に於て賜宴あらせられることがある。壯嚴を極めた數ある宮殿中にても、この千草の間は最も善美を盡したものである。

千種之間



明治天皇御製

道

おのが身を修むる道は學ばなむ
　しづがなりはひ暇なくとも

をりにふれて

むらぎもの心のかぎりつくしてむ
　わが思ふことなりもならずも

神祇

目に見えぬ神にむかひてはぢざるは
　人の心のまことなりけり

述懐

むらぎもの心にたえずおもふこと
　なしとげし日ぞうれしかりける

海人

あびきする親に力をそふるかな
　海士が子どもは幼けれども

西溜之間

正殿と豐明殿との中間に中庭を隔てゝ相對せる御間がある。右方の御間が西溜、左方の御間が東溜で、共に參內せる臣僚の控室である。

西溜は東溜に相對し葡萄の間の北方にある御間である。その入口は四枚の硝子戸よりなり、中央の二枚が觀音開きとなつてゐる。硝子戸には金色の金具燦然と輝き腰には唐草模樣の裝飾が施してある。華麗なる格天井、壯美なる御室の御調度等凡て東溜の結構と略同じであるが、唯違つてゐるのは硝子戸の上部の裝飾で、東溜は唐草模樣であるが、西溜は二羽の鳳凰が飛んで居る模樣である。

西溜之間

明治天皇御製

鏡

くもりなく世をたもてとて千早ぶる
　神のさづけし鏡なるらむ

鏡

榊葉にかくる鏡をかゞみにて
　人もこゝろをみかけとぞ思ふ

神祇

ちはやぶる神のまもりによりてこそ
　わが葦原のくにはやすけれ

旗

くもりなき朝日のはたにあまてらす
　神のみいつをあふげ國民

農家

しづがすむわらやのさまを見てぞ思ふ
　雨風あらき時はいかにと

賢　所

賢　所

賢所は三種の神器中の八咫鏡の御うつしを奉安せる所で、檜の白木を用ひられし神々しい破風作りの頗る壯嚴な御構である。毎年元始祭、天長節、神嘗祭、新嘗祭等にはそれぞれ御祭典を行はせられる。又國家に大事ありし際は必ず御奉告祭を行はせられ、皇室の大婚竝に皇族の御婚儀等は必ず賢所の大前にて行はせらるゝが例で攝政宮殿下と良子女王殿下の御成婚の御儀式も此處にて行はせられたのである。其他皇子の御誕生竝に御命名の場合にも之れを賢所に御奉告あらせられる。尚ほ官吏が特別の御用を奉じて遠く海外に使ひする時、竝に歸朝した時にも必ず賢所に參拜を仰せ付けられるのが例である。御寫眞はその正門である。

明治天皇御製

折にふれて

かぎりなき世にのこさむと國のため
たふれし人の名をぞとゞむる

同

よとゝもに語りつたへよ國のため
命をすてし人のいさをを

同

身をすてゝいさををたてし人の名は
國のほまれと共にのこさむ

錦

とつくにの人に見すべきしきしまの
大和錦をおりいださなむ

寫眞

國のため命をすてしますらをの
姿をつねにかゝげてぞみる

振天府

振天府

振天府は吹上御苑の入口と並びたる高い所に建てられ極めて質素な檜作りの建物で明治二十七八年、日清戰役及臺灣役の戰利品、記念品等を御保存あらせられ、同役の戰死者の名は寫眞と共にこの府に納められてある。

明治天皇がこの振天府を御建設遊さるゝに就ては總ての設計より、名稱、意匠、圖案の額に至る迄御親らの御工夫と御指示とに由らせ給ひしもので、大帝の御面影を偲び參らすべき思ひ出深きものと承はる。

御額は勅命を奉じ小松宮彰仁親王殿下の御染筆になれるもので其額の裏には「朕が子々孫々に至るまで、永く保存して忠勇なる陸海軍の功績を不朽に傳ふべし」との聖意を刻されてある。

明治天皇御製

日

さしのぼる朝日のごとくさわやかに
もたまほしきは心なりけり

塵

ともすればうきたちやすき世の人の
心のちりをいかでしづめむ

河

岩がねをきりとほしても川水は
思ふところに流れゆくらむ

天

ひさかたの空はへだてもなかりけり
つちなる國はさかひあれども

隣

へだてなく親しむ世こそ嬉しけれ
となりの國も事あらずして

有光亭及振天府參考室

有光亭及振天府參考室

有光亭は振天府參考室の傍にありて日清戰役中の大戰なりし、威海衞の攻略を記念せられたもので、總てが當時の海戰を偲ぶべき品々を御利用あらせられてある。即ち建物の柱は、威海衞の攻擊に際し、我が海軍を苦しめたる港口防禦に使用せし木材及び彼の鎭遠、定遠の艦材を使用せられ、又背壁は威海衞の砲臺にあつた砲門上の石を利用されてある。尙椽臺は、淸兵が筏に組みたる木材を以てこれに當てさせられてある。亭の左右には雌雄の石の唐獅子が相對して居る。

明治天皇御製

折にふれて

國の爲いのちをすてしものゝふの
魂や鏡にいまうつるらむ

同

萬代もふみのうへにぞのこさせむ
國につくしゝ臣の子の名は

同

いかならむ事にあひてもたわまぬは
わがしきしまの大和だましひ

落花

人みなの惜む心はしりながら
かぎりある世と花のちるらむ

勇

ちよろづの仇にむかひてたわまぬぞ
大和をのこの心なりける

建安府

建安府は吹上御苑の三角門内に建設せられてある。此の建安府は我國未曾有の大戰として、國運を賭して戰ひたる彼の明治卅七八年日露戰役に於ける戰利品、記念品竝に忠烈なる我が戰死病歿者の寫眞及其の姓名をば、永遠に御保存あらせ給はんとする、有難き大御心より、明治天皇の御設計に依り建てられたるものである。御額の文字は勅命を奉じて閑院宮載仁親王殿下の御染筆になつたものである。

建安府

明治天皇御製

折にふれて

物學ぶ道にたつ子よおこたりに
まされる仇はなしとしらなむ

道

近きよりゆかむとしてはなか〳〵に
遠くぞまよふ世の中のみち

をりにふれて

むらぎもの心たゆまず進みなば
さかしき山も越えざらめやは

心

世の人にまさる力はあらずとも
心にはづることなからなむ

をりにふれて

いつくしとめづるあまりに撫子の
庭のをしへをおろそかにすな

東宮假御所

東宮假御所は赤坂離宮と稱せられたが、大正十三年一月二十六日攝政宮殿下、良子女王殿下御成婚の日より東宮假御所と定められ兩殿下の御起居に充てさせられてある。

元紀州侯の庭園で明治五年赤坂離宮と定められたが翌明治六年皇居の炎上に際し明治天皇には此處（現在の洋館に改築以前）に御立退遊ばされ假皇居とお定めになり明治廿二年現今の宮城が竣成するに至る迄御起居あらせられた。

其後明治四十一年工費約二千萬圓を投じて全然洋式に御造營あらせられ現在の如き壯麗な宮殿を見るに至つた。最初東宮御所に御充用の御豫定であつたが御都合で其の儘となり大正十一年の春英國皇太子殿下御來朝に際しては御旅館に充てられ、大正十二年夏よりは攝政宮殿下の御起居に用ひさせられた。御殿はルネッサン式、石造二層の建築にして坪數四千五百九十坪東西兩翼の御車寄は相距ること五十間、歐洲著名の宮殿に範をとらせられ其宏壯雄麗なること東洋一と稱せられてゐる。御寫眞は正門より御殿を拜したところである。

東宮假御所

明治天皇御製

田秋風

秋風はふきなあらびそ足曳の
山田のをしねかりあぐるまで

道

なかばにてやすらふことのなくもがな
學びの道のわけがたしとて

水

山川のながれは末になりぬれど
にごらぬ水は濁らざりけり

孝

たらちねの親につかへてまめなるが
人のまことの始なりけり

庭

たらちねのにはの敎はせばけれど
ひろき世にたつもとゐとぞなる

東宮假御所御苑

東宮假御所（元赤坂離宮）御苑

東宮假御所の御苑は元紀州侯が菊花を培養したところで明治六年此處を假皇居と定めらるゝや明治天皇には年々歳々之れを御觀賞遊ばされ、尙この樂しみを臣下にまで分たんとの有難き大御心より明治十三年以降例年菊花の拜觀を許され御宴さへ賜はることゝなつた。これが新宿御苑に於ける觀菊御會と共に著名な觀菊御會である。

御寫眞は御所後方の御苑で、片塵をとゞめざる芝生や丘には佳樹珍木影濃に點在し典雅雄大の氣自ら人に迫る。淸碧を堪えた池の彼方に見ゆる洋館は御殿である。

明治天皇御製

をりにふれて

おもふこと思ふがまゝになれりとも
身を愼まむことな忘れそ

夜

ぬばたまのよるこそ書はよむべけれ
あだし事には心うつさで

をりにふれて

かみつよの御代のおきてをたがへじと
思ふぞおのがねがひなりける

師

學びえて道のはかせとなる人も
をしへのおやの恵わするな

をりにふれて

わが心われとをり〳〵かへり見よ
しらず〳〵も迷ふことあり

濱離宮

濱離宮

濱離宮は京橋區築地にあり、近くは芝離宮の翠緑を望み、遠くは房總の連山を一眸の裡に收め風光頗る絶佳である。德川幕府時代には濱御殿と呼び將軍の鷹狩を催す場所であつた。現在の規模の大體は德川家齊時代に修築されたものと云はれてゐる。明治三年離宮に編入せられ濱離宮と稱せらるることゝなつた。離宮の大半は庭園と鴨場とよりなり江戸時代に築かれた名園の名殘は比較的變化せずに保存されてゐる。建物には中島御茶屋(聖上の御座所及び皇族方の御座所がある)を始め燕の御茶屋、鷹の御茶屋、汐見の御茶屋等あり建坪は千十餘坪である。鴨場も德川時代より存置したもので現今も時に臣僚を召されて鴨獵の御催しがあり、外國より貴賓來朝の節も鴨獵を以て御接待遊さるるやう承はる。御寫眞は中島御茶屋に續く大池にして橋上には藤棚が遠く連り花時の景色は殊に趣が深い。

明治天皇御製

折にふれて

さまざまのうきふしをへて呉竹の
　よにすぐれたる人とこそなれ

述懐

よの中はたかきいやしきほど〳〵に
　身をつくすこそつとめなりけれ

歳暮

人みなのおどろきがほに惜むかな
　にはかにくるゝ年ならなくに

女

なよたけはすなほならなむうつせみの
　世にぬけいでむ力ありとも

心

しのびてもあるべき時にともすれば
　あやまつものは心なりけり

明治神宮 御本殿

明治神宮 御本殿

明治神宮は東京府下代々木に御鎮座あらせらるゝ官幣大社にして其の内苑總面積二十一萬八千八百九十三坪、大正四年十月起工同九年十月竣成された。

正面より鳥居を入れば南神門、拜殿、續いて中門、御本殿にして、左右にある御便殿其他の御建物を合せて十八棟、建坪は六百五十六坪、此の御造營に要した石材は三萬立方尺、木材一萬九千九百八十四石、檜皮十萬八千貫で工費總額五百二十一萬九千五百六十三圓である。

拜殿より拜し、菊花の御紋章いとも神々しき中門を隔てゝ、千木高く立つは御本殿である。御建築は流造で木曾山の檜を用ゐられ、御根屋も檜皮葺にて建坪二十九坪、崇高尊嚴を極めてゐる。

叡聖文武千古に比なき明治天皇及び御坤德高き昭憲皇太后の御神靈は永久に此處に鎮座ましまして我が國を護らせ給ふのである。例祭は明治天皇の天長節である十一月三日である。

明治天皇御製

述懐

ひとり身をかへりみるかなまつりごと
たすくる人はあまたあれども

子

すなほにもおほしたてなむいづれにも
かたぶきやすき庭のわか竹

巖上松

苔むせるいはねの松の萬代も
うごきなき世は神ぞもるらむ

讀書

文字をのみよみならひつゝ讀む書の
心をえたる人ぞすくなき

寄草述懐

かりそめの言の葉草もともすれば
ものゝ根ざしとなる世なりけり

明治神宮 表參道大鳥居

明治神宮　表參道大鳥居

御本殿に達するには表參道、北參道、西參道の三道である。表參道は省線原宿驛より及び青山方面よりの參道にして水無橋を渡れば此の大鳥居はその入口に高く聳え立つて居る。此の鳥居は臺灣阿里山中の大檜を以て作られ笠木には菊花の御紋章の金色も鮮に輝いてゐる。鳥居の前は約千百坪の廣場で參道に入つて八間幅となる。參道兩側の樹林は明治天皇の御聖德を敬慕し奉る全國赤子よりの献木にして一樹一木にその至誠が罩められて居る。

明治天皇御製

老人

ほど〳〵にたつべき道もあるものを
老ひにけりとて身をなかこちそ

親

ひとりたつ身になりぬともおほしたてし
親の恵をわすれざらなむ

農夫

山田もるしづが心はやすからじ
種おろすより刈りあぐるまで

心

かざらむと思はざりせばなか〳〵に
うるはしからむ人のこゝろは

折にふれて

すゝむべき時をはかりて進まずば
危き道にいりもこそすれ

明治神宮　正面鳥居及南神門

正面の南鳥居は高さ二十尺、柱間二十一尺、臺灣阿里山の檜材を以て造られ三つの菊花御紋章は金色鮮に輝き、左右には玉垣が連つて居る。

鳥居の奥の建物は南神門（俗に樓門といふ）で總檜素木造り、十二坪半、結構極めて壯麗である、遙か遠方に石段の見ゆるは拜殿である。

明治神宮　正面鳥居及南神門

明治天皇御製

植物苑

我園にしげりあひけり外國の
草木の苗もおほしたつれば

池龜

池水のうきものしたにすむ龜も
いでゝせをほす春ののどけさ

岩

天地のなしのまゝなるいはがねの
姿はことにおもしろきかな

磯松

波風をしのぎ〳〵て荒磯の
松はちとせの根をかためけむ

旅中情

草まくら旅にいでゝは思ふかな
民のなりはひさまたげむかと

新宿御苑御殿

新宿御苑　御殿

新宿御苑は四谷區新宿に在り、其の一部は維新前には内藤駿河守の屋敷のあつた所で、明治十二年に宮内省の所管となつた。御苑の總面積は十九萬三千六百五十七坪（約六十五町歩）廣大な芝生や、花壇あり、溫室や菜園も設けられ或は泉池、或は深林等自然の悠大は人工の美と相待つて全く塵外の別天地をなしてゐる。

殊に苑内には櫻樹多く、花時の眺望は更に一段の趣を添へ、その盛觀到底他に於て見られざる所である。されば大正六年以降當御苑に於て觀櫻會を催させられ朝野の貴顯紳士に御饗宴を賜ふが例となつてゐる。攝政宮殿下は御苑内芝生の最も廣き處にて時々ゴルフ等の御運動を遊ばされると承はる。

また畏きあたりの御食膳に上る鷄卵、蔬菜類は每日此の御苑より奉納される。

御殿は和洋折衷の瀟洒な御建物で御寫眞の右方一段高く突き出た御間が兩陛下の御座所で御苑中にても最も趣の深い眺に面してゐる。觀櫻會等の際は此處にて一時御休息遊ばされ、それより會場に向はせられるのである。

明治天皇御製

花似雲

たかゝらぬ松のこのまにさきながら
　雲かとみゆる山櫻かな

松間花

こがくれて咲くとはすれど松風の
　ふくたびにちる山ざくらかな

靜見花

よものうみ波をさまりてこの春は
　心のどかに花を見るかな

樹間花

こずゑのみ人に知られて櫻花
　こがくれながら散りやはつらむ

民戸煙

事あるにつけていよ／＼思ふかな
　民のかまどの煙いかにと

新宿御苑　林泉

御殿の御座所より一眸に見渡さるゝ景色で御苑中にても別けて眺望の絶佳な所である。此の林泉は内藤駿河守が丹誠をこめて造られた庭園で、枝ぶりゆかしき松や檜、こぶし等の老大木の繁り合ふ様、奇岩怪石が苔蒸して臥牛の如く横はる趣、さては廣い芝生の彼方此方に躑躅等が點綴して變化の妙を極めてゐるなど、一木一石すべて元の面影をその儘に殘されてあり、明治天皇に於かせられても、非常に賞讃あらせられた處と承はる。

新宿御苑林泉

明治天皇御製

雲

あつまると見れば離るゝ大ぞらの
雲にも似たるひと心かな

折にふれて

おもふこと思ひ定めて後にこそ
人にはかくといふべかりけれ

寄道述懐

白雲のよそに求むな世の人の
まことの道ぞしきしまの道

車

くつがへることもこそあれ小車の
進むにのみはまかせざらなむ

富士山

萬代の國のしづめと大空に
あふぐは富士のたかねなりけり

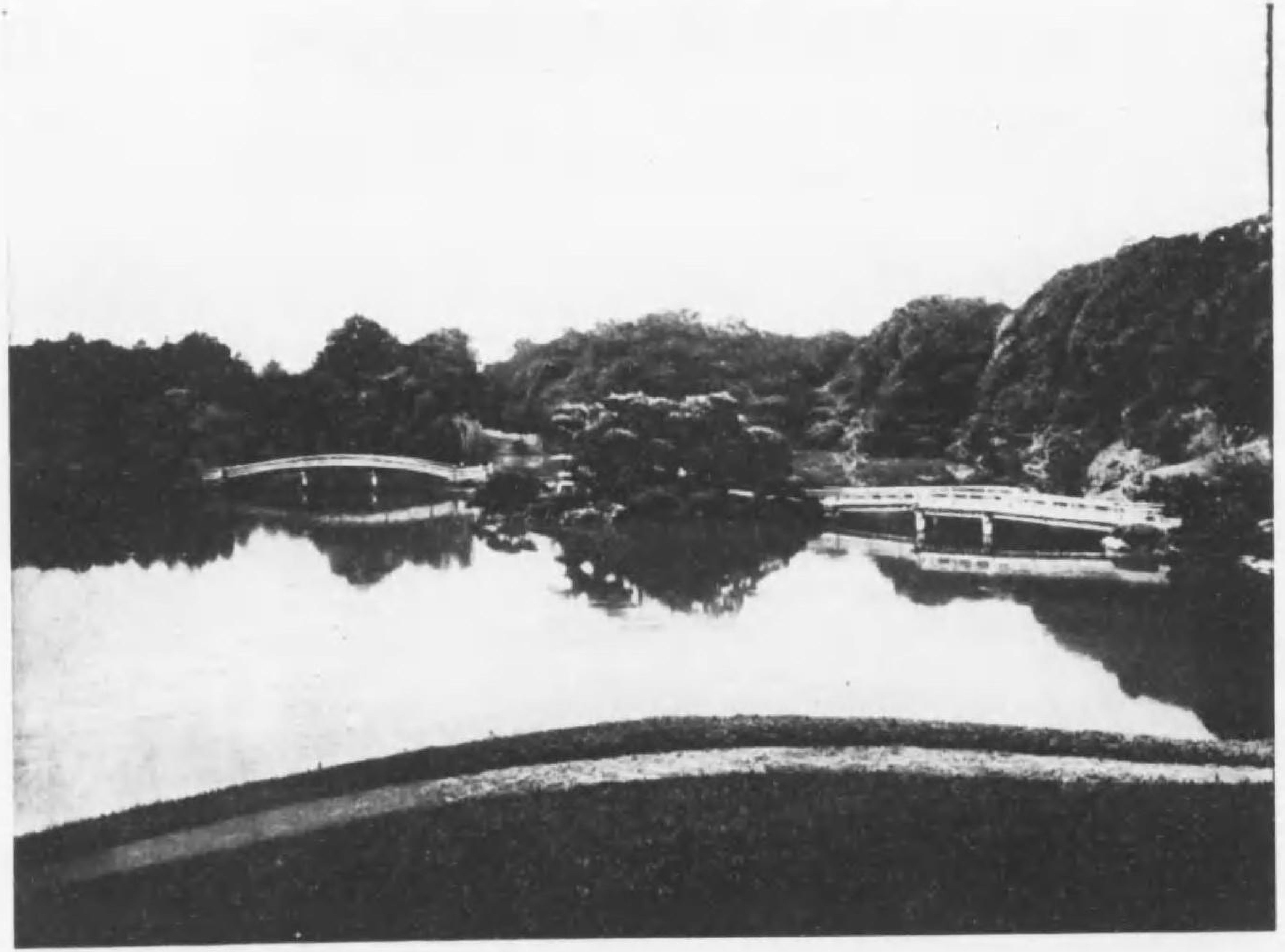
新宿御苑　動物園林泉

御苑内に黒塀を圍らして一廓をなせるを動物園と稱へ、種々の鳥禽が飼はれてある所で、其廣袤約二萬四千坪、純日本式の幽邃なる庭園である。園内に御休所二ヶ所あつて、樂羽亭、翔天亭と稱せらる。

御寫眞は樂羽亭に望める林泉で明治天皇には此處にて時々鴨獵を催されて非常に興がらせ給ひ、その御休所も御躬ら樂羽亭と御命名遊ばされた。

池中に中島があり、松樹の葉蔭に雪白な鶴の姿の隱見するのも面白い。清麗な池の面に此の島や雅趣のある橋が深林を背景にして倒に映つてゐる景色は眞に一幅の大繪畫を見るやうである。

新宿御苑動物園林泉



明治天皇御製

述懐

いにしへのふみ見るたびに思ふかな
おのがをさむる國はいかにと

水石契久

さざれ石の巖とならむ末までも
五十鈴の川の水はにごらじ

田家烟

小山田のさとのけぶりも年々に
たちそふ世こそ樂しかりけれ

鴉

やどるべき木立多かる森にても
ねぐら爭ふむら鳥かな

道

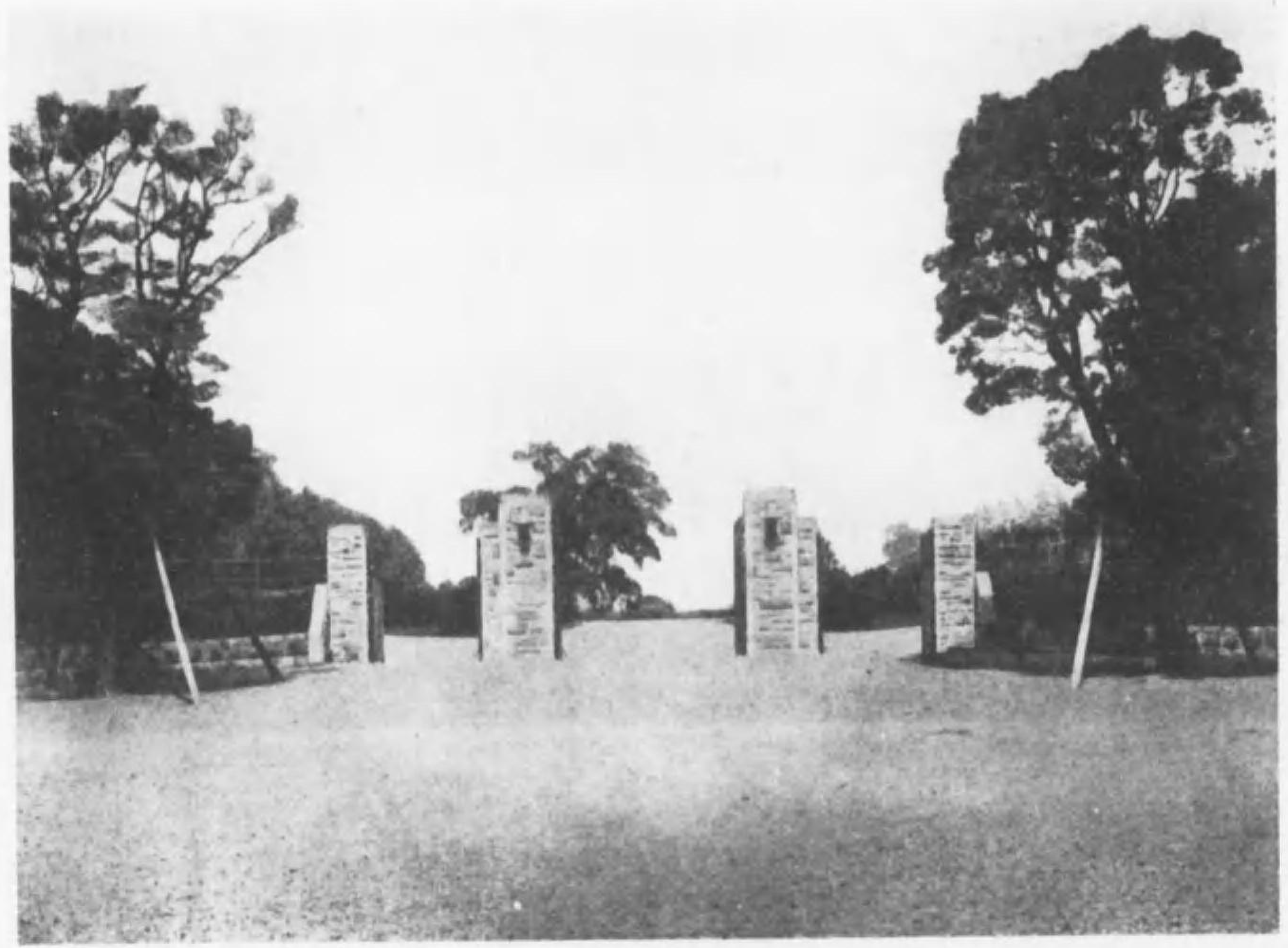
千早ぶる神のひらきし道をまた
ひらくは人の力なりけり

新宿御苑正門

此の正門は御苑の東南に在り、觀櫻會等多數參集の場合に開かれ、平常は新宿一丁目の御門から出入するのである。

正門を入つた所一圓は佛蘭西式の設計で、正面に模樣化した花壇、その兩側にプラタナスの並木道がある。内藤駿河守の御屋敷時代には此の邊一帶茶畑であつたとのことである。正面花壇に續く芝生は御苑中でも最も廣い所で、凡半里程の間、御苑の端から端まで一眸に見通しが出來る。此處で攝政宮殿下にはゴルフ等の御運動を遊ばすと承はる。

新宿御苑正門



大正十四年五月一日印刷
大正十四年五月五日發行

（非賣品）

不許複製

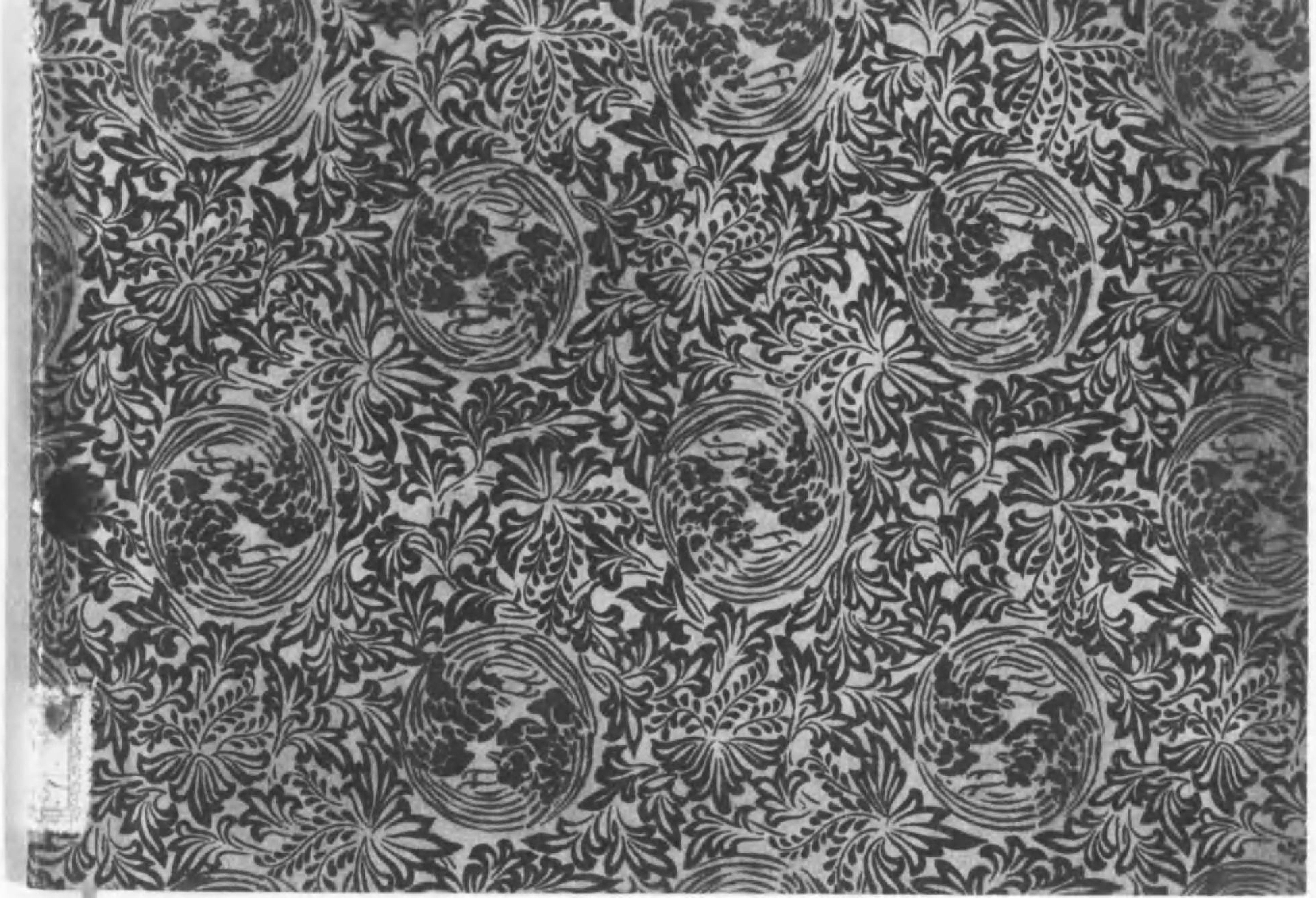
編纂發行者　大日本國民教育會

代表者　東京市麹町區下六番町拾番地　山口彌一

印刷者　東京市神田區今川小路一丁目三番地　出雲寶太郎

印刷所　東京市神田區今川小路一丁目三番地　大日本國民教育會印刷部

發行所　東京市麹町區下六番町十番地　大日本國民教育會
電話長四谷四八五〇番
振替東京五五一四番

284
445

終